



季刊 すまいる



雙栗神社 (久御山町)

室町時代末、1494年頃の建立とされる本殿は重要文化財。三間社流造で屋根は檜皮葺。裏殿には「花と鳥」「紅葉と鹿」、脇障子上部には「りすとぶどう」の精緻な彫刻が施されている。本殿北側にそびえる大クスノキは京都の自然200選、町指定天然記念物。樹高30m、幹回り53.5cmの巨木で樹齢400〜500年と推定され、古くから神木として守られてきた。

錦市場

錦小路通の寺町から高倉まで東西約390mに、京野菜、京料理の食材、鮮魚など130軒余りの店が連なる。イトインスペースがある店も。平安時代には市が立っていたとされ、記録によると江戸時代1615年、幕府公認の三店魚問屋(さんたなうおとんや)の一つとして始まった。以来、「京の台所」と称され、地元の人たち、観光客でにぎわう。



湯豆腐

京都の名物料理の一つ。南禅寺周辺の精進料理が起源で、当時は焼き豆腐を煮たものだったという。鍋に昆布を取っただしをはる。または昆布を敷いて水を入れ、豆腐を加えて加熱してつけだれていただく。シンプルな料理のため、特に素材の質が大切。豆腐に「す」が立たないよう、長く煮過ぎないのもポイント。



くわい

芽のびる姿から「芽が出る」「めでたい」に通じる縁起物としておせち料理や祝い膳に欠かせない。平安時代に中国から渡来したとされる。皮が青色の青くわいが一般的で、特有のほろ苦さの中にはんどのりとした甘みも。含め煮、素揚げ、クリーム煮、くわいご飯などに。血圧の上昇を抑制する作用が期待されるカリウムが多く含まれる。

葉牡丹

色鮮やかな葉が重なる姿が牡丹の花に似ていることから名づけられたとされる。江戸初期に食用として伝わったが、園芸用として品種改良されて広まり、今では丸葉系、縮緬葉系、葉に光沢があるものなど世界屈指の多彩な系統を愛でられる。近年では正月用の門松や寄せ植え用だけでなく、冬のガーデニングの人気者。



社会文化現象の

一断面である



医療法人啓信会 理事長

中野 博美

もう30年も前になるだろうか。ある勉強会で、長く厚生労働省に勤められ、その後健康保険組合連合会に身を置かれた下村健さんに以下のことを質問した。「最近の国の医療費抑制政策は、医療施設を減らして国民の健康を低下させようとしているのですか？ 他の省庁では担当する産業の育成を図ることが主務であるのに対して、厚生労働省では医療施設の制限をしているように感じます」と。すると下村健さんは即座に、「バカ言っちゃいけない、日本国が国を挙げて育成を図った産業は医療をおいて他にはない」と答えられた。

1961年にいわゆる皆保険制度が整ってから10年間、医師数は1・2倍、看護師数は1・4倍になった。そして患者数は2倍に増加した。いろんな見方が出来ようが、皆保険以前に国民は体調が悪くてもおいそれとは医療機関に受診できず、それこそ大病をすると田畑を売ってその対価に充てたという状況が、皆保険以降は比較的安価な自己負担で受診することが出来るようになったという。特に結核治療に関しては、若年患者の治療が確立出来たことで労働人口の確保が可能となったばかりでなく抗結核薬の薬価低減にも効果があった。脆弱であった日本の医療機関を、皆保険制度という手法で政府は後押しをしていたのだ。

いわゆる高度成長長期の中、皆保険制度の後押しにて育成されてきた医療機関だが、日本は今や高齢化社会、高齢社会を通り過ぎて超高齢社会となった。人口も減少局面となり、介護保険制度も創設から20年を経過している。高齢者人口は今後もなお増え続け、一方では支えてである労働人口は徐々に減少していく。如何せん労働人口という切り口では日本の産業構造を支える構図になっていない。日本の高度成長を支えたのは主に人口増である。高度成長長期に政府、経済界はその後の社会構造の変化に関心があったのだろうか？ 岸田政権は種を蒔こうということか、異次元の少子化対策という触れ込みであるが、少子化対策はすべてが上手く働いても効果が見えるのは20年後である。政府の異次元の少子化対策は30年遅すぎた。バブル後の30年の間に他国の成長を横目に見ながら日本は全く成長せず、GDPはもちろん賃金の上昇も見られていない。バブル後のどこがよくなかったのか？

こんなことばかり並べていてもしょうがないが、我々医療機関は「国民の健康」という利他的・公益的事業を担当しているからといって何も特別な立場ではなく、医療も広く「社会文化現象の一断面である」という認識が必要である。

今年も何卒よろしくお願い申し上げます。



パンデミック発生 から3年



医療法人啓信会 京都きょう川病院 院長

中川 達哉

新型コロナウイルスによるパンデミック発生から3年が経過しました。

本邦では香港からの大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」で感染者が発生し2020年2月3日横浜港に寄港後、検疫や船内隔離等が行われましたが死亡者が発生。その後、小さなクラスターの発生や有名人の死亡例などのニュースを全国民が注目していました。今振り返るとクラスターの規模や件数は微々たる物でした。

当院は感染症指定医療機関であったため当初より中等症までの新型コロナ患者を受け入れており、ウイルス性肺炎の患者さんに接する機会は多かったです。当時、急速に重症化したり、入院時情報と異なり当初から重症の患者さんがおられ、ECMO目的に挿管・転送を要する方が何人かおられました。受け入れ先の決定も簡単ではありませんでした。重症病床の先生方、コントロールセンターや保健所の方々に感謝いたします。

現在陽性者は劇的に増加したものの、おそらくワクチン接種が進み、抗ウイルス薬が開発されウイルスそのものが変異したこと等により現在の死亡率はほぼインフルエンザ並みに低下しています。漸く2類から5類への変更が行われることになりました。

多くの医療機関、介護施設と同様、当院でもクラスターが何度か発生しました。またクラスター防止のための頻回のウイルス検査を要したことも職員が多くがストレスを感じていたと思います。一般社会はこの機会に本来の意味でのwith coronaの生活になりそうです。

一方で医療機関は簡単にその流れに乗るのは難しそうですが、新型コロナ以外の患者さんの救急医療が逼迫している現状解消のため、出来るだけ早くコロナ前の診療体制に戻せるよう努力したいと考えています。

急性期から回復期まで幅広い医療を提供する京都きづ川病院のさまざまな病棟で、日々安全を守りながら患者様に寄り添うケアを行う看護師たち。よりよい看護を目指すため、各自が次の目標に向かって自己研鑽にも努めています。今回は専門的な知識・技術を生かして活躍中の3名にインタビューしました。

創傷関連のケアをタイムリーに行い、 早期回復をサポート

西村 加代子

看護部長室 看護主任

スキンケア担当 特定看護師（日本看護学会 特定行為研修修了者）
日本褥瘡学会認定師
日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会 ストーマ認定士
日本フットケア・足病医学会認定師
日本医療リンパドレナージ協会 リンパ浮腫・医療リンパドレナージセラピスト
京都府糖尿病療養指導士
弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター



他の病院での勤務を経て1989年にきづ川病院に入職しました。数年前から院内の多職種のスタッフが所属する褥瘡委員会の管理者として院内組織を横断して動く立場になりました。寝たきりなどによってできる褥瘡（一般的に床ずれともいわれる）の処置やケアにあたるが増えたのですが、患者様の皮膚にできた壊死組織を取り除くなど医師にしかできない処置が必要な場合に、どうしても即対応するということができないので、もっとタイムリーにできればという思いをもちました。

そんななか2015年から、一定の基準を満たして研修を修了することで医師の手順書に従って看護師が「特定行為」と呼ばれる医師しかできなかった医療行為の一部を行えるという制度ができました。この制度は、団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向けて在宅医療が推進されているうえで、一定の診療補助（特定行為）を行える看護師の必要性が高まっている背景があります。3年前に部長の勧めもあり、創傷管理の分野の研修を受講し医学的な視点も学び、壊死組織の除去を含むいくつかの特定行為を行えるようになりました。早い段階でケアを実践できるのは、1日でも早い回復のために意義を感じています。

褥瘡のほかに、人工肛門やリンパ浮腫による皮膚トラブル、糖尿病による足病変などさまざまなスキンケア全般に専門性を生かして対応しています。院内から関連の相談がくることも多いので、まずはそれに答え、必要に応じて医師につなぐなど組織にも貢献できるよう努めています。

高齢化が進んで、自宅療養中の患者様のご家族も高齢になり、十分なケアができないまま大きな褥瘡になっているというケースも多くなっていると思います。ですが、ご高齢で入院される患者様でも、適切に処置をして栄養を与えると、回復してご自宅へ帰っていただけるということも多いです。患者様の傷が綺麗な状態に戻っているのを見ると、ご家族の負担も軽減できると思いますし、やっつけてよかったなと感じますね。

褥瘡委員会では、定例のミーティングのほか褥瘡に関する症例発表などを掲載した「褥瘡ニュース」を3カ月に一度発行し病棟に配布するようにしています。また今後、褥瘡委員会の後輩にも、特定行為研修修了者となってもらえるよう引き続き指導にもあたっていきたいと思います。

／ モットー /
私のmottoは

自分の目で見て判断することです。忙しくても伝達だけで次の指示を出さず、自分で確認するようにしています。



看護部 スキンケア・感染室



館山市安房医療センターで支援活動中（本多）



陸上自衛隊長池演習場にて訓練中の一コマ（本多）

病院内のすべての人を感染から守るために活動



箕浦 静江

看護部長室 看護師長

感染制御実践看護師

1999年にきづ川病院に入職して病棟の看護師を務めてきました。2021年に感染制御実践看護師となり、ICT(感染対策チーム)メンバーなどと連携して院内の感染管理をする立場として、病棟全体に関わるようになりました。以前とは違う視点が必要で難しいこともあります。新しいことに挑戦するやりがいを感じています。

院内で感染がおこるとその経緯を調べ、その原因を取り除く対策をしています。できる範囲の情報をまとめ、次におこらないよう院内に発信しています。感染は目に見えない分、対応が難しいことがあります。そのため空気の流れを見るためにお香を使って煙の流れを見るなど、自分なりに工夫をしています。

感染防止には病棟での基本的な予防行動が何よりも大切ということを実感しています。そのため病棟で感染対策に直接関わるリンクナースの育成にもさらに努めていきたいと思っています。

資格を取得したのが偶然新型コロナウイルス感染症が拡大したのと同時期で、いきなり未経験の感染症対策に取り組むことになりましたが、周りの人たちが懸命に協力してくださりなんとか乗り切ってきました。今後もみなさんの協力のもと、コロナ以外の耐性菌の対策などにも取り組んでいきたいと考えています。

／ モットー /
私のmottolish

「くじけないこと」。この数年は思ってもいなかった苦勞の連続でしたが、くじけずがんばれば周囲の協力も得られるし、乗り越えたことは大きな自信になりました。

災害現場でも活躍できるように、日々鍛錬を重ねる



本多 登茂子

外来 看護師

京都府看護協会災害支援ナース・災害救援看護ボランティア登録者

全日本病院協会 AMAT隊員

陸上自衛隊 予備自衛官

全日本病院協会 AMAT隊員養成研修

京都府医師会JMAT隊員

ケアマネジャー

AHA BLS・ICLSプロバイダー

JPTEC インストラクター

准看護師として25年看護に携わり4年前に看護師になり、現在外来を担当しています。きづ川病院に入職する前、市内の病院に勤務していた1995年阪神・淡路大震災がおこりました。大変なことがおこっているなか、自分にできることは限られていることを知り、それをきっかけに救急と災害医療に興味をもちました。

10年以上前から毎年京都府看護協会災害支援ナースと災害救援看護ボランティアに登録していて、災害看護の研究や防災訓練に参加しています。看護師になって、挑戦できる幅が広がったこともあり、AMAT(全日本病院協会災害医療支援班)隊員、看護官として陸上自衛隊の予備自衛官にもなりました。

2019年に千葉県館山市の台風災害の被災地に、当院からAMATとして現院長とともに赴きました。職員も被災している病院に、救急外来の看護師として入りました。支援に行っている立場でどうことが求められていて、何に気づくべきなのかを考え行動することの大切さを知ることができました。また予備自衛官の訓練では、他の参加者との交流によりいい刺激を受けています。院外での支援活動に関しては、上司や周りのスタッフの協力にとっても感謝しています。

今後は経験したことを生かし、当院が支援を受ける側になる場合にも備え、行動していきたいと考えています。

／ モットー /
私のmottolish

明確な目標を立て一つずつクリアしていくことです。富士登山をイメージしてがんばります！

新しい取り組みにも 前向きな団結力のあるチーム

すまいる レポート

京都きづ川病院3階北病棟

京都きづ川病院3階北病棟は、整形外科・消化器内科の急性期を担当する混合病棟です。2022年9月に3階南病棟から当病棟の師長に異動となった遠田順子看護師長と榎野由佳、岡恵美、吉岡唯菜の3人の看護主任に話を聞きました。

コミュニケーションがチームの団結力に

全部で51床の病棟で、40名弱のスタッフが他職種とも連携を取り患者様のケアを行っています。病棟の雰囲気は、とにかくスタッフ同士の仲がよくいい雰囲気と4人は声を揃えます。コロナ禍で普段のおしゃべりは控えています。先輩後輩関係なく仕事からプライベートなことまで気軽に話をする関係性のスタッフが多いことか。遠田師長は「活発なコミュニケーションが仕事の団結力につながっていますね。日々の情報共有も、しっかりなされていと思えます」と異動しての印象を話しています。

情報共有のためには、毎朝の申し送りなどに加えて、貼り紙なども使っ



左から 吉岡唯菜看護主任、岡恵美看護主任、遠田順子看護師長、榎野由佳看護主任

てスタッフ全員にわかりやすく伝える工夫もしているとのこと。

個別性のある看護を

病棟は、さまざまな状態の患者様に対して、患者様の視点に立ち個別性のある看護の提供を心がけています。そこで、一人の看護師が入院から退院まで一貫して関わるプライマリナーシングを取り入れています。担当看護師は、患者様が目標とする生活に少しでも早く戻れるように、医師をはじめリハビリスタッフ、MSW、栄養管理部門、と他職種で情報共有し進めています。毎朝のカンファレンスを通して、病棟全体で統一したケアが提供できるようチームの力を生かして頑張っています。

患者様、ご家族の幸せのために

忙しい状況のなかでも新たな取り組みも始めています。榎野主任は、治療方針に関する患者様の意思決定支援をその一つとしてあげています。「当人である患者様の意志がおざなりにならないようご本人の気持ちを引き出し、ご家族に伝える役割ができればと考えています。倫理的な問題も含め難しい点はありますが、私自身自分の人生は自分で決めたいと思うので」と榎野主任。岡主任は「スタッフの中から、緩和ケアに取り組みたいという意見もあります。意思決定支援とも関連させて広がる支援もできるように



なりたいですね」と話してくれました。

ご家族がコロナ禍で面会に來られない状況は続いています。吉岡主任は「やはり私たちと患者様、ご家族とのつながりは、治療を進めるためにも大切ということをこの間により感じました」と、ご家族との少ない対面の機会や電話でできる限りのコミュニケーションを心がけているそうです。

最後に遠田師長は「この病棟に來て、みんなに助けてもらいながら新しい刺激を受けている日々です。看護主任やスタッフとのコミュニケーションを大事にしながら、より働きやすい環境づくりにも努めていきたいです」と笑顔で話してくれました。

おいしく、カラダに効く発酵食品

味噌やしょうゆ、酢、みりん、漬物、納豆など、日本の食生活に欠かせない発酵食品。保存食としてだけでなく、近年は健康食品としてもあらためて注目されています。その発酵パワーを知って、日々の食卓でおいしくいただきましょう。

発酵ってなあに？

発酵には、酵母菌やカビ、細菌といった有用微生物の働きが関係しています。それらの微生物によって素材の中のデンプンやタンパク質が分解され、新たな栄養素やうま味を加わるのです。

発酵食品の歴史は古く、日本では奈良時代の瓜の塩漬けが最古の記録ですが、縄文、弥生時代にはすでにつくられていたとされています。

世界を見てもチーズやアンチョビ、キムチ、豆板醤など、各国で多くつくられています。なかでも日本は発酵食品大国と言われるほど豊かです。日本醸造学会では、味噌やしょうゆ、酒などをつくる「麹菌」を「国菌」に認定しています。

発酵食品には、主に次のようなメリットがあります。

保存性が高い

微生物が腐敗の原因となる雑菌の繁殖を抑えます。

うま味がアップ

うま味や甘味、コクが増し、風味や香りも深まります。

栄養価が高まる

消化吸収もされやすくなります。

腸内環境を整える

生きた菌が腸内の善玉菌の働きを助け、腸内環境を整えます。腸内のバランスが整うことで、免疫力を高める効果が期待できます。



※このようにカラダに良い発酵食品ですが、塩分や糖が多く含まれるものもあるので、食べ過ぎにはご注意ください。バランスの良い食事を心がけ、毎日少しずつ発酵食品を取り入れましょう。

季節の野菜をおいしく食べよう

イワシの葱味噌チーズ焼き

味噌とチーズでしっかりした味わいのオーブン焼きです。

味噌の大豆にはリノール酸が含まれており、コレステロールを体外に排出する効果があります。

【材料】2人分（調理時間 20分）

イワシ 2匹
青ネギ 80g
ナッツ 20g
ピザ用チーズ 適量
オリーブオイル 適量

ブラックペッパー .. 適量
粉チーズ 適量
カットレモン 1個

〈合わせ味噌〉

味噌 大さじ 2
味噌 大さじ 1
酒 大さじ 1
おろしニンニク .. 小さじ 1/2



【下準備】

青ネギを小口切りにする。
ナッツは細くなるまで叩いておく。
合わせ味噌を混ぜ合わせておく。



【作り方】

- ① イワシは三枚に卸し、小骨を取り水気をしっかり拭き取る。
- ② イワシの背の部分に味噌をぬり、天板にのせてトースターで約2分焼く。
- ③ ②を取り出し、オリーブオイルをまわしかけ、青ネギ、ピザ用チーズ、ナッツを散らす。
- ④ トースターでチーズがこんがり焼けるまで焼く。器に盛り付け、ブラックペッパー、粉チーズをふりかけ、レモンを添えて完成。

きづ川病院
News

病院内の行事や予定などのお知らせです。
また、病院のホームページでは、最新の情報を掲載していますので、
ぜひご覧ください。

啓信会

ウェブ検索

<http://kyoto-keishinkai.or.jp>



京都きづ川病院

院長 中川 達哉
TEL.0774-54-1111 FAX.0774-54-1118

医療法人啓信会 介護老人保健施設 **萌木の村**

<城陽市寺田奥山1-6>
施設長 稲葉 栄子
TEL .0774-52-0011
FAX .0774-52-0701

医療法人啓信会 介護老人保健施設 **ひしの里**

<久世郡久御山町佐古内屋敷81-1>
施設長 植村 節子
TEL .0774-43-2626
FAX .0774-43-2627

医療法人 啓信会 **きづ川クリニック**

<城陽市平川西六反44>
院長 青谷 裕文
TEL .0774-54-1113
FAX .0774-54-1115

啓信会グループ

理事長 中野 博美

関連施設

- 京都四条診療所
- 四条健康管理センター

在宅サービス

- 京都きづ川病院 通所リハビリセンター
- 京都きづ川病院 訪問リハビリセンター
- 訪問看護ステーション きづ川はるー
- ヘルプステーション 萌木の村 21
- ヘルプステーション リエゾン大津
- ヘルプステーション リエゾン大久保
- ヘルプステーション リエゾン四条
- ヘルプステーション リエゾン健康村
- ヘルプステーション リエゾン羽束師
- 短時間型デイサービスセンター 要支援のみ リエゾン萌木の村
- 短時間型デイサービスセンター 要支援のみ リエゾン宇治おおくぼ
- 短時間型デイサービスセンター リエゾン健康村
- 短時間型デイサービスセンター リエゾン久御山ひしの里
- 短時間型デイサービスセンター リエゾン羽束師
- 認知症対応型デイサービスセンター リエゾン萌木の村
- 認知症対応型デイサービスセンター リエゾン久御山ひしの里
- 居宅介護支援事業所 リエゾン大津
- 居宅介護支援センター 萌木の村
- 居宅介護支援センター リエゾン四条
- ケアプランセンター リエゾン健康村

- ケアプランセンター リエゾン久御山ひしの里
- ケアプランセンター リエゾン羽束師
- ケアプランセンター リエゾン宇治おおくぼ
- 城陽市在宅介護支援センター 萌木の村

地域密着型サービス

- 小規模多機能ホーム リエゾン萌木の村
- 小規模多機能ホーム リエゾン健康村
- 小規模多機能ホーム リエゾン久御山ひしの里
- 小規模多機能ホーム リエゾン羽束師
- 小規模多機能ホーム リエゾン宇治おおくぼ
- グループホーム リエゾン萌木の村
- グループホーム リエゾンくみやま
- グループホーム リエゾン健康村
- グループホーム リエゾン羽束師
- グループホーム リエゾン宇治おおくぼ

サービス付き高齢者向け住宅

- サービス付き高齢者向け住宅 えがお

教育部門

- ケアスクールリエゾン 大久保校



医療法人 啓信会

京都きづ川病院

〒610-0101 城陽市平川西六反 26-1 TEL 0774-54-1111 FAX 0774-54-1119

URL <http://kyoto-keishinkai.or.jp/kizugawa>



日本医療機能評価機構
認定済 JC2201号